【好事例】（H26～H28 各市町村取り組みより）

【連携・協働】町内の各部署との連携による健康会議の実施

◎（南部町）H26.6 『なんぶ健康会議』を開催し、医療部会、食生活部会、運動部会の３部会で基本方針を決定。『スマイルなんぶ～健康・長寿、日本一を目指して～』をキャッチフレーズに、「町民と共に生活習慣病の発症と重症化の予防をする」を目標として４つの基本方針を決定し、健康を支える環境づくりに取り組んでいる。

スマイルなんぶ
～健康・長寿、日本一を目指して～

【連携・協働】他部署や他団体との連携

◎（甲斐市）『ラジオ体操のまち甲斐市』として日頃からラジオ体操の普及に取り組んでいる。チャレンジデーでは、多様な部署・団体と連携して参加者増加を図っている。H27は、子育て支援課と連携し「赤ちゃんハイハイ競走」や託児スペースを設けたママさん対象の「ゆがみ直し体操」を実施。

◎（富士河口湖町）総合型地域スポーツクラブ「クラブ富士山」と連携し、町民が週に１回は運動ができるように２０教室を開催して、「富士河口湖町スポーツ推進事業」を実施。

◎（西桂町）VF 甲府の小学校巡回研修を活用し、子どもの運動・スポーツ機会の創出を図った。

健康会議開催やチャレンジデーへの参加等を通して、多様な部署・関係団体が連携・協働し、さまざまな方向から運動・スポーツの機会の創出に取り組んでいる。

【出向く】対象者が参加しやすい場所へ出向く

◎（身延町）『町民いちスポーツ事業』の「幼児体操教室」や「ヨガ教室」を住民が参加しやすい児童館や公民館に出向いて開催。

◎（山梨市）幼児の体力向上事業として、年中児及び年長児を対象に市内幼稚園及び保育園に出向き、「ＭＫＳ幼児運動能力調査」に基づいた６種目の調査と、運動方法の指導を実施。

◎（北杜市）白州いずみの家にスポーツ推進委員が出向き、誰でも簡単できるスポーツ（遊び）のレクリエーション指導を実施。

◎（南アルプス市）合併前の旧市町村単位で毎年地区を変え、６年で市内を一周する『ふれあいウォーキング大会』を開催。

多くの対象者が参加しやすい場所で実施し、気軽に参加できる環境を作っている。

【広報】さまざまなツールを活用しての広報

◎（甲州市）保育園児を対象にしたミニソフトボール教室参加の保護者に、体を動かすことの楽しさや大切さを掲載したチラシを配布。

◎（南部町）『なんぶ健康会議』の運動部会で、毎日できるトレーニングポスターを作成し、全戸配布した。

他市町村も対象にあわせて、さまざまなツールを活用し、周知しています。さらに、SNS も活用して、情報発信を行うと効果的。

【タッチポイント】お祭りやイベントにスポーツコーナーを設置

◎（中央市）「中央市ふるさとまつり」で、スポーツ推進委員が軽スポーツコーナーを設置。お祭り来場者へのスポーツとの接点を創出。

◎（笛吹市）笛吹市社会福祉協議会及び障害者地域活動支援センター「ふえふき」主催による『ハートランドふえふき』に参加。ローカルルールの輪投げやボウリングシャトルを紹介・指導。

【タッチポイント】健康ポイントラリー事業の活用

◎（富士吉田市）長寿社会課の取り組みである健康ポイントラリー事業と協力し、健康体力づくり教室をポイント対象事業にしている。ポイントが貯まると、クオカード等と交換。

スポーツ・運動以外のお祭りやイベント、ポイントラリーなど、スポーツ・運動との接点を設け、運動機会のない人たちが運動・スポーツをする機会を作っている。

H２６年度から実施してきた各市町村の好事例から、アプローチ別に、より多くの方々への運動・スポーツの機会を提供できると考える効果的な取り組みを掲載しました。

これらの他にも多くの市町村で、未実施率縮減のための取り組みを実施しています。

「する、みる、支える」の循環によるスポーツ振興

山梨学院大学准教授　長倉　富貴

日本のスポーツ界は今、大きな転換期にある。2019 年にラグビーワールドカップ、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック大会、そして 2021 年のワールドマスターズゲームズという国際メガスポーツイベントの連続開催を控え、いよいよスポーツ庁も本格始動する。

今月 1 月 12 日に、スポーツ庁の予算が発表された。「スポーツ施策の総合的な推進」として、①スポーツの成長産業化②スポーツ参画人口の拡大、地域社会の活性化、障害者スポーツの推進③子供の体力の向上、学校体育・運動部活動の促進、が挙げられている。中でも注目すべき点は、①のスポーツの成長産業化であろう。

政府は、「日本再興戦略 2016」（2016 年 6 月閣議決定）でスポーツ産業を現在の市場規模（2015 年時点で 5.5 兆円）から 2025 年までに 15 兆円に成長させると目標を掲げた。H28 年度に、スポーツ庁と経済産業省が共同で開催した「スポーツ未来開拓会議」の中間とりまとめでも、スタジアム・アリーナを改修し現在の「するスポーツ」仕様の施設から、「みるスポーツ」機能を持たせプロフィット（利益）を産みだす場へ転換させる必要性が指摘されている。

実際、日本のスポーツ施設の多くの割合を占める学校施設は、「教育の場」としての機能を備えることが最優先であり、観客席などは必要とされなかった。（アメリカの学校の体育館には、コートサイドにかならず数段の観客席が設置されており、学校対抗戦のときには席に観客が溢れ大変盛り上がる。）自治体のスポーツ施設におい

ても、国民体育大会を契機に整備されてきたので、競技者仕様でありプロスポーツやトップリーグでの利用には課題が多い。

しかし、日々地域でスポーツ指導に携わっている方々やスポーツ行政担当からすれば、いきなりスポーツ産業を成長させると言われても全くピンとこないのではないだろうか。日本のスポーツは、学校体育から発展してきた経緯があり、長い間文部科学省（以前は文部省）の元でスポーツ振興政策がなされてきた。そのため、スポーツ＝体育ととらえられ、教育という認識が強く、当然プロフィットを産むような事業・ビジネスとはなかなか噛み合わなかった。

少し視点を変えてみよう。スポーツには、「するスポーツ」「みるスポーツ」「支えるスポーツ」という関わり方がある。そして、スポーツの振興を考えたときには、この「する」「みる」「支える」の循環が大切である。教育は、「する」部分を重視してきた。そしてプロスポーツやトップスポーツは、「みる」場を人々に提供してきた。そして、その「するスポーツ」と「みるスポーツ」をつなぐのが「支える」といえる。選手を育てるのも、スポンサーとして大会を支援するのも、チームのマネージャーとして練習メニューを考えるのも「支える」スポーツだ。最近では、一般の人がスポーツボランティアとして大会を「支える」側で活躍する場も増えている。

スポーツ推進事業としても、今後は「する」機会の提供だけに限らず、スポーツを「みる」機会の提供や、地域のスポーツイベントや大会のスタッフとして運営に関わらせるスポーツボランティアを活用するなど「支える」機会の提供があってもよいだろう。この「支える」スポーツの部分を育てていけば、自然と「みるスポーツ」や「するスポーツ」も盛り上がっていくのではないだろうか。こう

してスポーツへの関わり方が多様化し、関わる人が増えることでスポーツの振興は促進され、産業としても発展していくことになる。産業が発展すれば、選手や指導者の環境やソフト面ハード面の環境も改善改良される。そして、競技人口が増えたりスポーツ実施率があがることで、政府の目指す「スポーツ立国」にもつながっていくのではないだろうか。

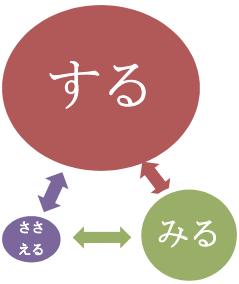

図１．する、みる、支える人口のバランスが悪く発展が制限される

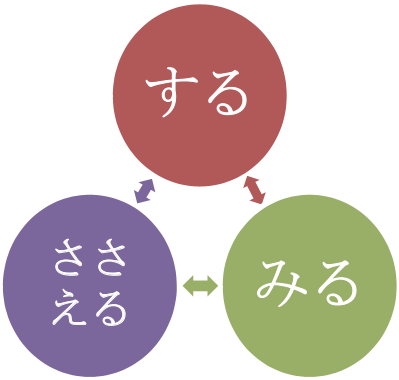

図２．する、みる、支える人口のバランスがよく相乗効果で発展の循環ができる

今年度の各地域の活動の報告を概観すると、この協議会が示した4 つのアプローチ「出向く」「タッチポイント」「連携・協働」「広報」が積極的に実践されており、特に「連携・協働」の点では福祉課や社会福祉協議会、子育てや医療、など多様な分野との連携がなされ担当者の努力や工夫がみられる。今後は、さらにプロスポーツや民間スポーツ団体とも連携体制をつくり、「みるスポーツ」に関わるような事業や、「支えるスポーツ」の部分を開拓してもよいだろう。住民をスタッフとして巻き込み、住民が主体的に運営に関われるような機会を提供することで、新たなスポーツ事業や連携、タッチポイントが自然と生まれるのではないだろうか。

H28 年度　県政モニター調査結果（H28 年 11 月実施）抜粋

今年度の「県民のスポーツに対する意識活動調査」は、この１年間の状況変化を把握し、今後の施策・事業に反映させるために実施いたしました。

１　回答者数　330 人（実施者数　398 人）

２　運動・スポーツの実施状況について

［問 5-1］この 1 年間に 15 分以上の運動・スポーツを行いましたか
（ウォーキング・ラジオ体操・ストレッチなど手軽なものも含む）

	H28 本県	H27 全国
行った	80.3%	77.2%
全く行わなかった	19.7%	22.6%
わからない	0%	0.2%

[問 5-2①]運動・スポーツを行う頻度はどの程度ですか

	H28 本県	H27 全国
週に３日以上	29.7%	19.6%
週に１～２日	20.9%	20.8%
月に１～３日	18.8%	21.1%
3 ヶ月に１～２日	5.2%	9.1%
年に１～３日	5.5%	6.2%
年 0 回	19.7%	22.6%

※無回答あり

３　運動・スポーツを行わなかった理由

[問 5-3①]「全く行わなかった」を選択した人のみ回答
①あなたが１年間に運動・スポーツを全く行わなかった理由
（H28 多かった理由）

1	忙しかったから（仕事・家事・育児などで）	52.3%
2	運動・スポーツの機会がなかったから	38.5%
3	運動・スポーツに興味がないから	15.4%

４　その他

[問 5-4]どんな問題が解消されれば運動・スポーツを行えますか
（H28 多かった理由）

1	余暇時間の確保ができること	60.0%
2	身近に活動場所があること	45.0%
3	お金がかからないこと	32.5%

[問 6-2]参加してみたい地域の行事はありますか
（H28 多かった理由）

1	運動会や球技会などの軽スポーツ行事	39.4%
2	体力テストなどの体力づくり行事	28.5%
3	地域の集会所などで行う少人数の健康づくり	28.2%

詳しくは、山梨県庁ホームページ　http://www.pref.yamanashi.jp
「県政モニターアンケートの実施結果」を検索し、「県民のスポーツに関する意識・活動調査」をご覧ください。

【参考】その他スポーツ関係団体リンク先

文部科学省スポーツ庁をはじめ、各スポーツ関係団体では様々な情報を発信しており、参考になる情報が満載です。是非ご利用頂き、地域スポーツ活動に活用してください。

文部科学省（スポーツ庁）	http://www.mext.go.jp/a_menu/a004.htm
政策・審議会・白書・統計・出版物・申請・手続き・等の情報	
笹川スポーツ財団	http://www.ssf.or.jp/
研究調査・人材育成・自治体との連携等スポーツ振興に必要な情報の収集・分析・発信、政策提言	
山梨県体育協会	http://www.sports.pref.yamanashi.jp/taikyo/
国体・体育祭り・スポーツ少年団・スポレク祭・施設管理・スポーツ指導者・指導者派遣・巡回体力測定・軽スポーツ用具の貸し出し等の情報	
山梨県レクリエーション協会	http://ameblo.jp/053783/
スポーツ・レク活動各種情報・レクリエーション活動資格・フォークダンス・３Ｂ体操　・民謡　・踏・ニュースポーツ等各種団体の情報	
山梨県障害者スポーツ協会	http://www.sanshoukyou.net/services/ysports.html
障害者スポーツ・スポーツ用具の貸し出し・山梨県障害者スポーツ大会等の情報	
山梨県社会福祉協議会	http://www.y-fukushi.or.jp/index.html
ことぶきマスター人材バンク・全国健康福祉祭・いきいき山梨ねんりんピック等の情報	

平成２８年度　身近な地域スポーツ促進事業

「スポーツ JanJan　～より身近なスポーツ活動を促進するために～」

平成２９年２月発行

編集・発行　　山梨県教育庁スポーツ健康課
山梨県甲府市丸の内１－６－１
電話　０５５（２２３）１７８２